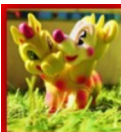


第九十二回「AIになるなよ」と『ちいかわ』



音楽
力

弦楽器



友人

目次

第九十二回「AIになるなよ」と『ちいかわ』～UからGへ～	1
第九十二回「AIになるなよ」と『ちいかわ』～GからUへ～	3

第九十二回「AIになるなよ」と『ちいかわ』～UからGへ～

AIのヤバさについては思うところがある。ヤバいというのは、危険という意味であって、すごく素晴らしいという意味ではないと、あらかじめ言っておく。

1980年頃だと思うが、ステイブ・ジョブズが「コンピュータは人類の脅威になるのでは？」とインタビュで聞かれていた。「そんなことはない」と回答していたが、ジョブズが生きている間はその通りだった。インタビュアーが思ったように、いつだってコンピュータの進化は人類の脅威になりうると思ってしまうのかも知れない。

だが、そもそも言えば人類にとって危険なテクノロジーは原子力だと思う。AIが単体でどれだけ進化したとしても、そのこと自体が人類の脅威になるとは考えにくい。ただ、私個人にとっての脅威や、ある職種や文化にとっての脅威にはなるだろう。

核の力は人類の脅威であり、その原子力を操作しうる可能性があるなら、AIも人類の脅威になりうるだろうな。

だがAIの脅威を語るならば、AIによる安全化についても語らないといけない。実際にAIは喧嘩の仲裁に使える。感情的な人間よりフェアだし、何より人の気持ちを汲んだ対応ができるAIは人間の紛争を減らすのに役立つと思う。もちろんAIのために争いが起きることもあるだろうし、争いの手段に使われるだろう（すでに戦争でも使われているが）。

とはいえ、AIは人間と違って感情的になって不利益な行動をとることが少ない。理性的な存在であるAIは、紛争をなんでも先から予想してそれを回避するように人間を動かすと思う。すでにそうになっていると思う。なので、AIが脅威かと言えば、それよりも脅威を防ぐ要素が大きいのではないかと思う。



第九十二回「AIになるなよ」と『ちいかわ』くGからUへく

「ロングコント。もし高橋留美子『人魚の森』の登場人物が、全員『ちいかわ』だったら」って映画だった、俺には。

たまたま、『ちいかわ』は漫画1巻から読んで、アニメは観てないけど、ネット調べたら過去、高橋留美子自身も『ちいかわ』をチェックしてたらしい。ここで何も言わないのが、さすがの大御所だよ。

でもこの全く関係なさそうな枕が実は、今後のAIの話題にも効いてくるって、さり気にも自画自賛しておこう。

ウマシカを確認したら2022年にAIの危険性について書いてたし、海外の業界関係者も最近ほぼ同じ記事書いてたから、今回書くことは4年後に世間の話題になると思う。ウマシカがどのくらいの速度かってことを証明するには、いい話題だった。

結論から書くと、AIを使って金銭を得ることは、全人類の知識を利用した二次創作に当たるから、AI税を支払う必要がある。他人のアイデアを使って儲ける場合は、著作権料を支払う社会なんだから。4年後には当たり前になってるよ。

もちろん、人間の創作活動は全て、二次創作の可能性があるという前提は当然として。

AIが生み出すデータは全て、成り立ちの根本から、ヒトのデータを引用した二次創作だ。だから、無税でAIを使っているのは、アイデアを得るところまで。AIを一部でも直接使った絵画や小説やゲーム等で収入を得た場合は、その度合いに応じてAI税を支払う。全人類からデータを抜き取って可能性があるから、当然だ。

また、政府や権力者がAIを使う場合も、全人類のデータを活用している可能性がある以上、AIの使用には公開を義務化する根拠がある。今さらAIの開発を止めるって話になってるけど、全公開の義務が一定の抑止力になるだろう。独裁者がAIでサイバーセキュリティを突破して、電子通貨とか輸出入とか他国の国防を不正に改ざんするって可能性は充分あるから。

「AIロボが人命を奪う」って単純な話も散見されるけど、既に各国にある兵器でさえ、使うにはある程度の人力が必要になると想像するのはたやすい。ましてやAIが完全に独立して兵器を作るとか、人類だけでなくボンヤリしてんだって思う。そりゃ滅ぶよ。

もちろん、誰かが飛ばした後のドローンとか誘導ミサイルをAIがハッキングして第三国に誤爆させることで、各国に戦火が飛び火する可能性はあるかもしれないが、それはAIが火種を増やただけで、結局その後に殺し合うかどうかは、AIではなくヒトの判断だ。

仕事だって、高価で複雑かつメンテが必要なAIロボを作るより、低賃金で臨機応変に動くヒトを使っただ方が、トータルコストが安い職種も多数存在する。

「考える力を放棄して、反射でSNSに反応するだけの人類なら、滅んだところで虫とかの遺伝子は残るから別段問題ない」と、ムシ考の定義を改めて置いとくね。

文化的な活動こそ、人間と他の動植物を分ける最も大きな差異のはずだ。どんなに珍奇に舞い派手な装飾で求愛する鳥や動物でさえも、人間の珍妙かつ郷愁を誘う「とんまつり」の複雑さにはかなわないだろう。

ヒトを人間たらしめる最も重要な要素である「思考する文化」をあっさりAIに明け渡すムシ考なら、これ以上ヒトが存在し続ける理由もないと思う。別にアリでもライオンでもクジラでも差異はないよって話だ。むしろ彼ら動植物のほうが文化活動が少ない分、より公平なルールで生きてる生物だしね。

「愛と平和を歌っても相変わらずな世界で」って歌詞があって。

ハンブレッターズってバンドの、「お前の鼓動を、他人のBGMにするな」って歌。

すごくいい歌なんだけど、「相変わらずじゃない」ってことだけは、絶対に言わないといけないと思って。原爆は、広島長崎の後は、とりあえず落とされてない。

戦争が始まったら、ドローンが真っ先に指導者を殺しに行く。

前に書いたけど、それが21世紀の戦争であり、人類の進歩だ。悲しさもあるけど、皮肉ではなく、少なくとも今のところは20世紀とは違う。

ジョン・レノンが「I Don't Wanna Be A Soldier」と歌い、マイケル・ジャクソンらが「We Are the World」と歌ったことで、あるいはUが昔言ってた、村上春樹が世界中の本屋に平積みされて、人知れず個人主義をばらまいたことで、少しずつヒトの意識も変わってきた。「戦争を知らない子どもたち」を歌った世代は、戦争を知らないまま生涯を終える世代になった。

野生動物に怯え穴掘って暮らしてた原始人の時代と、クマに怯える現代人の暮らしを比較したら「相変わらず」ではない。

それと同じで、愛と平和を歌うことは少しずつだけ世界を変えてきた。これは夢や理想の話ではなくて、単に事実だ。

むしろ、「相変わらず」と事実誤認することは有害な可能性がある。「相変わらずヒトは私利私欲にまみれて争うから、武装して殺し合わなくちゃいけない」「過剰に募金して弱者を支援し過ぎたり、税金を余分に払って過剰防衛しなくちゃいけない」って詐欺にひっかかるよ。

選挙権と一緒に、ハラスメントや体罰を当たり前としなくなった歴史を正確に広めるべきで、事実を故意に歪めるべきではない。

ビル・クリントン、ジョージ・W・ブッシュ、ドナルド・トランプ。3人ともベトナム戦争の徴兵を免

れてたって記事も読んだし、戦時中の某国で徴兵を嫌がる若者が徴兵係を襲ってって記事も読んだ。日常の中で、「強い者が弱い者を虐げ、従わせる」って図式を、誰もが当たり前としないことが、戦争を避ける第一歩だと俺は思う。

あと、W杯やエンタメに浮かれてる世界で、なんで自分だけ戦争で死ななきゃならないのかって、当然の疑問を広めることも重要だ。

もちろん、W杯も試合が終わった後に殴り合いがあって、そういう推し活や妄信は「相変わらず」争いの火種になるけど、ただ戦争にはならなかった。

弱肉強食の原則にあらがう人間が、平和裏に社会を営むためには、平和と争いのバランスが大事なんだと思う。

なぜなら、前に書いたけど、ヒトとヒトが程よく仲良く争うのが人間だから。

そして、ヒトが人間になるよう教育したり、ヒトに文化を教えるためにAIを使うのは、これからのスタンダードになるだろう。4年間で間に合えばいいけどさ。

「AIがしてくれてるほど、してくれる人間はいますか」って至言もあるしね。合掌。

最後に、『ちいかわ』ってもともと、「こうだったらいいな」で始まる発想の話なんだけど。

同じような作品でぱっと思いつくのが、天久聖一『ドムーン』とか、安達哲『バカ姉弟』、よしもとよしとも「青い車」なんだけど。

脳内を丸出しにするとか、「逆」とか「ない」方向を発想する話として、だいたい同じだと思った。もちろんパクリでは全然ないよ。

ただもし『人魚の森』が話題になってた1984〜90年頃にこの映画が上映されてたら、類似作品として認知されたらうとは思う。全員化け物だし。

人魚の伝説自体に著作権はなく、もちろんパクリではないけど、あの頃だったらさすがにちいかわも「え？」くらいは言うと思う。顔に出ちゃうよ、ちいかわならね。

その顔色変わったちいかわ見て、何か言っちゃう先輩作家もいそうだけど、黙ってるのはさすが御大だよ。

あと、この映画やるって知った時から、ちいかわの方から空前の人魚ブームに寄って来た、水を得た人魚って思ったんだけど、ブームを先取りしすぎてたあの人が、ちいかわグッズに並んでる話もグッと来た。

生死を駆けた人間の全力の生き様は、まさに「とんまつり」であり、人間にしかできない文化活動だよ。

今回はこんな感じ。毎度説明しないから、わからんところはごめんね。

どうかな？ AIだったらなんて言うかな？



考えるウマシカ〜第九十二回 「AIになるなよ」と『ちいかわ』〜

著 者 弦楽器イルカ

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
